



宮農情報

「あまおう」1月の管理

第31号 平成26年12月30日

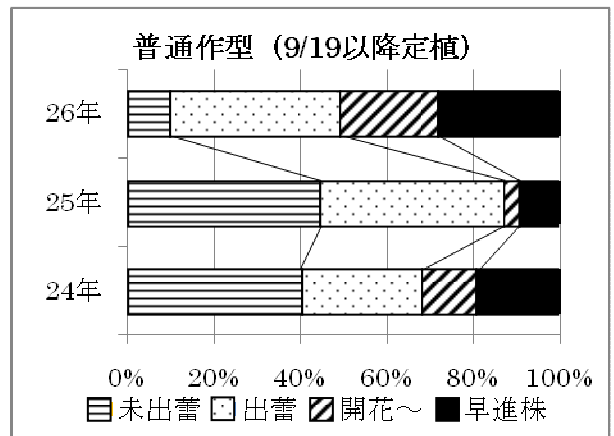
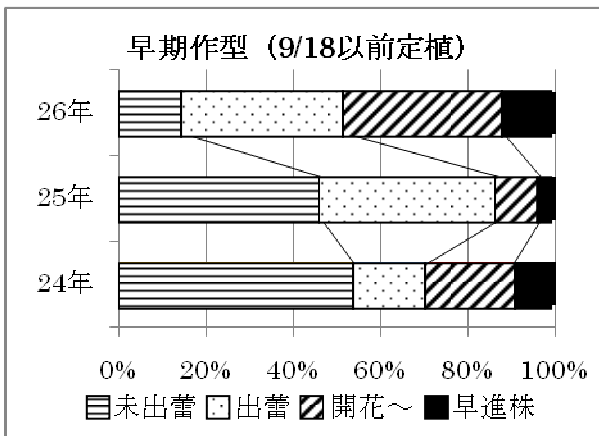
南筑後普及指導センター
福岡大城農業協同組合

10a 当たり収量 5t以上を目指しましょう

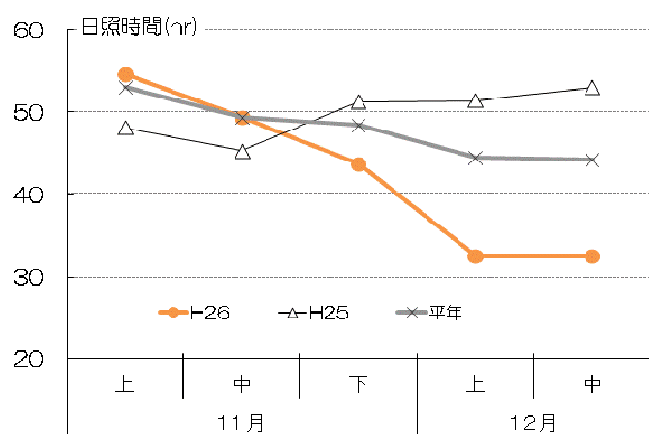
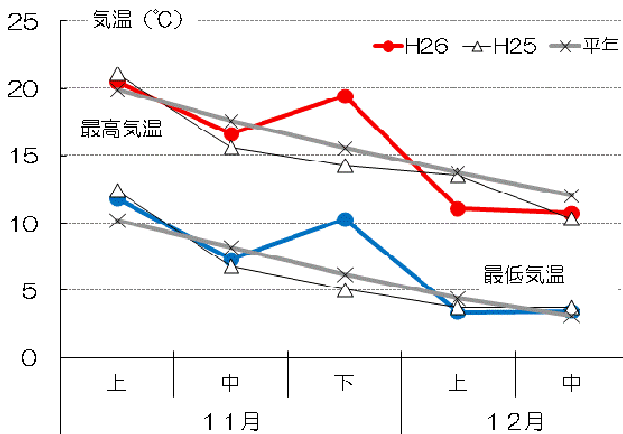
12月に入り冷え込んだために、展葉速度及び果実の着色が遅く、株の生育は緩やかで、出荷量は伸び悩んでいます。

現在、早期作型では収穫終盤、普通作型では1～3果収穫となっています。低温、日照不足で生育は遅れているものの、1～2番の果房間葉数が4～6枚と昨年に比べ少なく、2番果房は出蕾以降の株率が高くなっています。また、特に普通作型で早進株の発生割合も多く、今後株に負担がかかってくることが予想されますので、高めの温度管理と長めの電照管理で草勢を維持し、2番果房の生育促進と3番果房の早期出蕾を促しましょう。

年度別2番果房出蕾状況(南筑後普及指導センター管内:12月10～15日調査)



〈 最高・最低気温と日照時間(アメダス久留米より) 〉



○温度管理

- 2番果房の収穫開始までは、昼温（特に午前中）を高め管理し、心葉の展開や果房生育を促進する。

【果房の生育状況別温度管理の目安】

	昼間	夜間	備考
1番果房収穫期間	20～24℃	5～7℃	収穫期間中は品質向上のため、やや低めの温度管理
1番果房収穫終了から 2番果房収穫開始まで	24～26℃	5～7℃	2番果房の生育促進と、3番果房の出蕾を促すため高めの管理

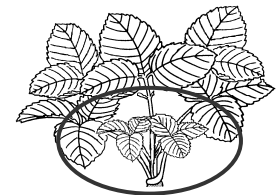
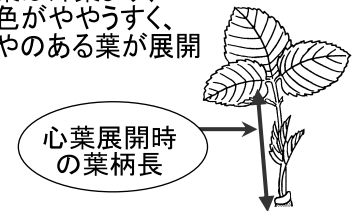
○電照管理

果房の連続性向上と収量増加のため、草勢が適正に維持できるように電照時間を調節して下さい。

- 電照時間の調節は、心葉の展開状況を観察し、株の着果状況や天候から今後の生育を予想して行う。
- 厳寒期は、生育が旺盛な場合でも電照を完全に切らない。
- 心葉から2枚目の葉が3枚目の葉より小さい場合は、電照時間を長くする。
- わい化してくると、外葉は大きくても心葉が小さくなるので、必ず隠れている心葉を確認する。

【心葉展開時の葉柄長の測定】

心葉は外葉より、葉色がややうすく、つやのある葉が展開



わい化状態の心葉

【電照時間調節の目安】

	時間を長く	現状維持	時間を短く
心葉の葉柄長	8cm以下	9～11cm程度	12cm以上
心葉の色	濃緑色	緑色	黄緑色
着果負担	増加	並	減少
予想気温	低温	並	高温

○かん水・肥培管理

- かん水は、地温を下げないように、出来るだけ晴天日の午前中に行う。
- 暖房機の稼働時間が長くと乾燥しやすくなる。そのため、高めの温度で管理する場合、葉からの蒸散量が増えるためかん水量を増やし、こまめなかん水を心がける。
- かん水の目安は、pF値1.7～1.8とする。（朝の葉液状況を適湿状況の目安とする）
- 液肥は、株が弱らないよう定期的に施用する。しかし、株が旺盛な場合は、春先に急激に立ち上げる原因になるため、液肥の施用を減らす。
- 液肥の施用量は、窒素成分で1か月当たり1～2kg/10aを目安とし、これを3～4回に分けて施用する。

○株整理

- 1番果房の果梗枝は、収穫が終わり次第除去する。果梗枝が残っていると、3番果房の出蕾抑制及び果実キズの発生、果梗枝折れの原因にもなる。
- 無駄な養分を使わないように、ランナーやどろ芽は除去する。
- 下葉は枯葉や黄化した葉のみを除去し、一気に葉を除去しない。
- 葉陰などで果実に光が当たらないと、黄種果が多くなるため玉出しを行う。
- 株整理は、収穫量の少ないうちに行っておく。

○ジベレリン処理

- 草勢が弱い場合は、5～7 ppm で5 ml/株の茎葉全面散布を行う。

○摘果

- 早進株のように着果数が多い場合、株の負担が大きく矮化しやすいため摘果を強めに行う。
- 2番果房の摘果は、3番果房の連続的な収穫を目的に行う。
- 摘果は、下表を目安に行う。

通常果梗: 3～5果/枝
かんざし果梗: 6～8果/枝



【 1枝当たりの着果数目安 】

○病害虫防除

現在、うどんこ病の発生が増えている。また、灰色かび病の発生も散見されるようになった。害虫ではハダニ類やアブラムシ類の発生が見られる。

防除は晴天日に行い、散布した薬液が速やかに乾くようにする。

○ハダニ類

- 活動の衰える厳寒期に防除を徹底し、2月以降の急増を抑える。
(株整理の後が防除に最適)

○アブラムシ類

- 果房の収穫が進むと、株全体の葉裏に寄生が多くなります。
葉裏に薬液がしっかりかかるように散布する。
- ほ場周辺の雑草を除去する。

○灰色かび病・菌核病

- 今後本格的に寒くなるにつれ、ハウスを閉めこむことが多くなり、湿度が高くなりやすいため、灰色かび病・菌核病が発生しやすくなる。

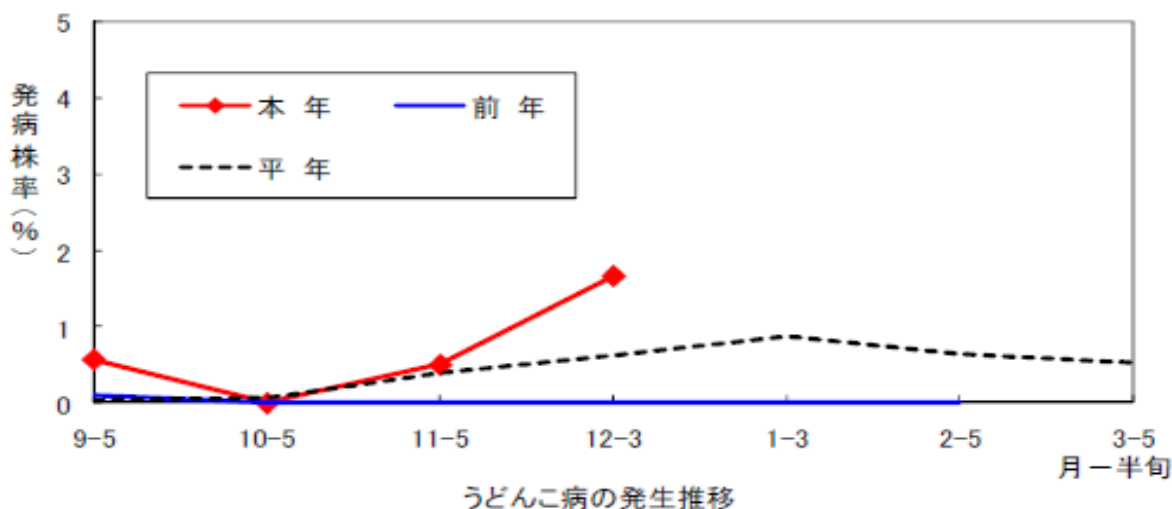
そのため曇雨天日が続く場合は、短時間でも出来るだけ換気を行う。

また、暖房機の送風や循環扇を活用し、ハウス内の除湿を行う。

- 特に、二重被覆をしているハウスは湿度が高くなりやすいため注意する。
- 発病した葉や果実は、速やかにハウス外に持ち出す。
- 薬剤により、定期的（10～15日毎）に予防散布を行う。

○うどんこ病

- 防除が遅れると、薬剤の効果が低下するため早期発見、早期防除に努める。
- 薬剤により、定期的に予防散布を行う。
- 発病した葉や果実は、速やかにハウス外に持ち出す。



<福岡県病害虫防除所調査>

農薬の安全使用と飛散防止対策を徹底しましょう！